

令和4年3月13日(日)
教科教育学コンソーシアム
第2回シンポジウム

教育課程の基準(学習指導要領)を
教科教育学としていかに分析・評価するか
一道徳科と関連づけてー

岐阜大学 柳沼 良太

はじめに(1)

- ▶ 学習指導要領…教育課程の基準を示す授業(単元)→年間計画→カリキュラム
教科の意図・目的、存在意義
教科の目標→内容→方法→評価など
- ▶ 学習指導要領を指針として実施
有効に機能しているか → アラインメント
制度化・計画→実施→分析・評価→改善



はじめに(2)

- ▶ 2015(平成27)年に「特別の教科 道徳」が全面改訂
- ▶ 教科の特質や構造に沿って学習指導要領に提示
(法令上の定義)検定教科書の導入、評定なし、専門免許状なし

- ▶ 2016(平成28)年の中央教育審議会答申
- ▶ 2017(平成29)年の学習指導要領・全面改訂
道徳科は変更なし
「第2章 各教科」ではなく、「第3章」に位置付け
週1回の授業時数(年間35時間 小1は34時間)
→従来の教科外活動(領域)と代り映えなし

はじめに(3)

- ▶ 今次改訂の特徴である「資質・能力の三観点」「主体的・対話的で深い学び」「見方・考え方」の未導入
道徳科は旧来のスタイルのまま
- ▶ 教科教育の見地 → 「特別の教科 道徳」
- ▶ 「教育課程の基準」が道徳科でどう機能しているか、
意図されたカリキュラムの達成状況及び課題は何か
 - 1節 道徳教科化での改善点
 - 2節 道徳教科化で残された諸課題
 - 3節 令和の日本型学校教育に向けて

1節 道徳教科化の改善点

- ▶ 「道徳の時間」を抜本的改善・充実
 - 道徳教育の要となって人格全体に係る道徳性の育成
 - 「教科ではないため軽視されがち」
 - 「いじめ問題等への対応」
 - 「学習指導要領に基づく内容を体系的な指導で学ぶ」
- 道徳科を教科教育学の見地から俯瞰
 - ▶ 従来は知育・德育・体育の区分 → 德育(人格形成)
 - ▶ 従来は知・情・意の区分 → 情(心情)、非認知能力
 - ▶ 認知的・情意的・行動的側面を総合的に指導

1節 道徳教科化の改善点

●従来の道徳授業の形骸化

- ▶ 登場人物の心情理解に終始する指導 ×
- ▶ 分かりきったことを教える指導 ×

●実効性が乏しい

- ▶ 授業が道徳的行為や習慣に繋がらない
- ▶ いじめのような現実問題に対応できない



●道徳科の固有の特徴を踏まえたパラダイム転換

教科の枠を超えて道徳科の特徴を俯瞰する視点

→ 教科教育学のパースペクティブ

(1)教科として目標 道徳科の目標

今次学習指導要領の特徴…育成すべき資質・能力
逆向きの設計 教科の成果→目標、内容、指導法
道徳科特有の特徴…人格全体に係る道徳性の育成

従来 道徳教育の目標…**道徳性**の育成

道徳の時間の目標…**道徳的実践力**の育成

内面的資質



今次 道徳教育の目標…**道徳性**の育成

道徳科の目標……**道徳性**の育成

(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲・態度)

よりよく生きていくための資質・能力

今次の道徳性の諸様相

- ▶ 道徳的判断力
- ▶ 道徳的心情
- ▶ 実践意欲・態度
- ▶ 道徳的行為
- ▶ 道徳的習慣

道徳性
の育成

問題解決的な学習や
体験的な学習の活用

道徳科の目標

道徳教育の目標

「育成すべき資質・能力」→道徳性

- ▶ 様々な課題や問題を解決し、よりよく生きていくための資質・能力(中教審答申平成26年)
- ▶ 人生で出会う様々な問題を解決して、よりよく生きていくための基盤となるもの(学習指導要領)

問題解決する資質・能力としての道徳性



生きる力 21世紀型能力
キー・コンピテンシー

21世紀型スキル(米)
キースキル(英)
コンピテンシー(仏)
汎用的能力(豪)
核心力量(韓国)

資質・能力ベースのカリキュラム編成

各教科共通で求められる資質・能力

- ▶ 情報化やグローバル化など急激な社会変化
- ▶ AIやIoTの進化 Society5.0 → 学校ver.3.0
- ▶ 人生100年時代 ライフ・シフト **コロナ禍**
予測な困難な時代

未来の創り手となる資質・能力の育成

持続可能な社会の担い手→新たな価値の創出

- ▶ 互いに納得し合える最善解を導く能力
- ▶ 分野横断的な幅広い知識と俯瞰力
- ▶ 別の問題場面にも適用できる汎用力

(1)教科としての目標 道徳科の目標

教科の構造

学習指導要領(平成27年改訂)

よりよく生きるために基盤となる道徳性を養うため、

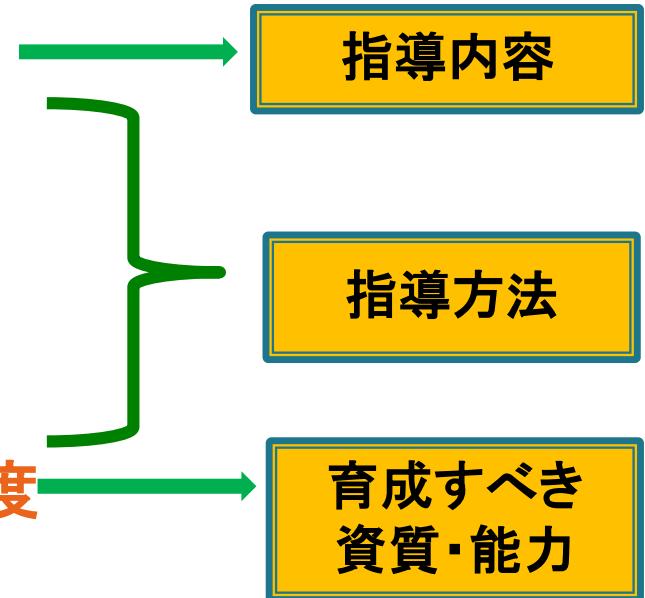
①道徳的諸価値についての理解を基に、

②自己を見つめ、物事を(広い視野から)
多面的・多角的に考え、

③自己の(人間としての)生き方について
の考え方を深める学習を通じて、

④道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度
を育てる。

※ 括弧内は中学校



ただし、「資質・能力の3観点」に分かれた
「各学年の目標」「内容の取扱い」はない

(2)教科の内容 → 道徳科の内容

- ▶ 各学年の発達段階や特性に合わせた資質・能力の三観点
(知識及び技能 思考力、判断力、表現力等)
- ▶ 道徳的諸価値の発展性や特質
(内容を端的に表す言葉の付記)
- ▶ 配列の入れ替え 内容の補充・統廃合
集団や社会との関わり ⇄ 生命、自然、崇高なもの
道徳性の発達に関連づけ

(2) 道徳科の内容 内容項目と道徳的諸価値

- A 自分自身に関すること
自律、自由と責任、誠実、節度、個性…
- B 人との関わりに関すること
思いやり、友情、信頼、感謝、相互理解、寛容…
- C 集団や社会との関わりに関すること
規則尊重、公正、正義、公共の精神、公徳心
- D 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
生命の尊さ、畏敬の念、よりよく生きる喜び…



道徳的な見方・考え方

(2) 道徳科の内容 今日的課題に対応

いじめ問題等に対応した道徳教育の充実

基本的な生活習慣、マナー・礼儀作法

自己肯定感・自尊感情の低下

規範意識の低下、人間関係の希薄化

情報モラル、環境倫理、生命倫理、

法教育、安全教育、主権者教育、障害者理解等

広い意味での道徳教育

→ カリキュラム・オーバーロード...

(週一時間の授業時数の限界)

(3)教科としての指導法 道德科の指導法

目標とする資質・能力を育成するために適切な指導方法を取り入れる。

生きて働く道徳性を育成するための指導方法
「読む道徳」から「考え議論する道徳」へ質的転換

▶ 答えが(一つでは)ない問題を解決する資質・能力を育成する

アクティブ・ラーニング、後の主体的・対話的で深い学び

道德科でも問題解決的な学習、体験的な学習
を積極的に導入

「考え方議論する道徳」の問題設定

▶ 正解を導く発問から解を限定しない発問へ

○自由か義務か？

○正義か思いやりか？

○国際競争か環境保全か？

○過ちを許す立場（相互理解・寛容）と
自分勝手を許さない立場（規則の順守）

→規範意識の問題

○友達と仲良くする立場（友情、信頼）と
同調圧力に流されない立場（公正、公平）

→いじめ問題

「考え方議論する道徳」とは 道徳科における質の高い多様な指導方法

従来の「読み取り道徳」 ×

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

登場人物の心情を自分との関わりで考え、道徳的諸価値の理解を深める。

② 問題解決的な学習

生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するためには、必要な資質・能力を養う。

③ 道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験を通して、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

道徳教育の評価等に係る専門家会議(2016)
道徳教育アーカイブ(動画)

道徳科における質の高い多様な指導方法について（案）

		× 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	体験的な学習		×
				役割演技	道徳的行為	
ねらい		教材の登場人物の心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通じて、道徳的価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。（原理、根拠、適用）	役割演技などの体験的な学習を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な問題や課題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。（原理、根拠、適用）		
具体例	導入	①道徳的価値に関する内容の提示 教材の話や発問を通して、本時に使う道徳的価値へ方向付ける。 ②登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を揣度することを通して、自分との関わりで考える。 【教師の主な発問】 ・ベンチの上から何度も机を飛ばしている時の気持ちはどのようなものだったでしょう。 ・女の子はどんな気持ちはベンチに座るとしていたのでしょうか。 ・「はっ」としたなかしてつおはどんなことを考えていたのでしょうか。 ③振り返り 本時の授業を踏まえ、各自で道徳的価値に関わる自分の在り方を振り返り、文義する。	①問題の発見 教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。 ②問題の探究 発見した問題について、グループなどで、なぜ問題となっているのか、問題をどのように解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて、多面的に、多角的に考え、議論を深める。 【教師の主な発問】 ・なぜ悪いやりは大切なのか。 ・どうすれば悪いやりを表現できるか。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するか。 ・なぜそのように行動するのか。 ・よりよい解決方法はないか。 ③複数の解決策の構想 問題場面に対し、様々な解決策を構想する。 【教師の主な発問】 ・主人公はどうしたらよいだろう。 ・自分ならどうしただろう。 ④問題の解決 問題の探究を踏まえ、問題に対する自分なりの考え方や解決方法を導き出す。	①道徳的価値の想起 個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える。 ②道徳的な問題の状況の分析 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 【教師の主な発問】 ・ここでは何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ③複数の解決策の構想 問題場面に対し、様々な解決策を構想する。 【教師の主な発問】 ・自分がそうされてもよいのか。 ・いつ、どこで、誰にでもそうされるか。 ・それで自分が幸せになれるか。 ④シミュレーション 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考え方を再考する。	①教材の提示 教材の概要の説明や登場人物の確認などをを行う。 (電車の中で座席を譲るか譲らないかという問題場面)。 ②道徳的な問題場面の提示 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 【教師の主な発問】 ・ここでは何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ③複数の解決策の構想 問題場面に対し、様々な解決策を構想する。 【教師の主な発問】 ・自分がそうされてもよいのか。 ・いつ、どこで、誰にでもそうされるか。 ・それで自分が幸せになれるか。 ④体験的な学習 自分ならどのように行動するかということを、役割演技などを通じて実際に経験する。	①道徳的価値に関する内容の提示 分かっていてもなかなか実践できない道徳的行为を想起し理由を考える。 ②資料の提示 道徳的価値の含まれた映像等を視聴し、登場人物の行動に思いを巡らし、行動の意味やその際の心情を考える。 ③資料の提示 道徳的価値の含まれた映像等を視聴し、登場人物の心情を理解し、何が問題となっているのか、状況を把握する。 ④再現の役割演技 グループで脚本を作り、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。 ⑤新たな場面の提示 同じ様の新たな問題場面を提示し、グループで何が問題となっているかを考え、取り得る行動を多面的・多角的に考える。 ⑥体験的な学習 これまでの授業を踏まえ、実際に問題場面を設定し、道徳的な行為を体験し、体験を通して実生活における道徳的な問題の解決に見通しをもたせる。
	展開	④まとめ 教師による説話。	④まとめ 今後の生活でどのように生きがい、価値の内面化から道徳的実践へと促す。	④まとめ 過去における根本的な問題に對し、自分なりの結論を出す。	④まとめ 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、自分の取り得る行動について振り返る。	④まとめ 体験した感想を交換したり、今後の生活にどうつなげていくかを考えるなどする。
	終末					

主題やねらいの設定が不十分な單なる生活経験の詰合意

(4) 教科としての評価 道徳科の評価

教科...目標とする資質・能力の育成を評価

道徳科...児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かす

ただし、数値などによる評価は行わない

記述式の評価

子供がいかに成長したかを積極的に受けとめ、努力を認めたり、励ましたりする個人内評価

(4) 道徳科の評価の課題

各教科との違い

- ① 知識(道徳的価値)の理解を評価しない
- ② 人間性・心情に係ることを評価しない
- ③ 道徳性の諸様相を観点別に評価しない

道徳科の評価の視点

- ① より多面的・多角的な見方へと発展しているか
- ② 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

指導と評価の一体化

(4) 道徳科内・外の評価

- ▶ 各教科の方針
学習内容を日常生活や社会生活に役立てる
- ▶ 道徳科と道德教育の関係
学校の教育活動全体で行う道德教育の要
- ▶ 道徳科と特別活動・総合的な学習等の関係
道徳性の育成とその実践

小・中学校における道徳教育と資質・能力（イメージ）

道徳科
各教科等
【学習】
【評価】

道徳科の学習活動を支える要素

自己を見つめる
多面的・多角的に考える

道徳的価値の理解

を基に

自己の（人間としての）
生き方についての
考え方（思考）

道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、
物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、
自己の（人間としての）生き方についての考え方を深める学習

道徳教育・道徳科で育てるることを目指す

資質・能力

道徳性

道徳的な判断力、
心情、
実践意欲と態度

自立した人間として
他者と共によりよく生きる
実践（行為・表現など）

【評価】

積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う
道徳科の「学習状況及び道徳性に係る成長の記録」

観点別評価や他の児童生徒との比較ではなく、個人内評価として見取ったことを記述により表現する評価。個々の内容項目ごとではなく、大くりなまとめを踏まえ、道徳科の学習を通じて、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めようとしているかどうかに注目する。

(H28.7.29初等中等教育局長通知)

道徳教育の要として補い、深め、
相互の関連を考えて発展・統合させる

各教科等の目標に基づく固有の指導

各教科等で育成する資質・能力

「学びに向かう力、人間性等」

「学びに向かう力、人間性等」に係る個人内評価

道徳性の育成は、「学びに向かう力・人間性」に深く関わる。「学びに向かう力・人間性」には、各教科等における観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分がある。こうした部分については、個人内評価（個人の良い点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る。

(H28.8.1「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）」教育課程企画特別部会)

学校生活全体において
具体的な行動として見られる部分
児童生徒の具体的な行動に関する
「行動の記録」

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動や
その他学校生活全体にわたって
認められる児童生徒の具体的な
行動について記載する。

2節 道徳教科化の諸課題

(課題1)「育成すべき資質・能力」の不明確さ
発達段階や発達課題の提示
判断基準の明確さ
評価の機能性

(課題2)「主体的・対話的で深い学び」の未導入
指導法の徹底

(課題1)育成すべき資質・能力の柱

平成29年改訂

① 「何を知っているか・何ができるか」

知識・技能を習得

② 「知っていること・できることをどう使うか」

思考力・判断力・表現力等を育成

③ 「どのように社会・世界と関わり、

よりよい人生を送るか」

学びに向かう力、人間性等を涵養

平成28年中教審答申では道徳科にも対応

①知識・技能の習得

道徳的諸価値の意義と大切さの理解

- ▶ 人間としてよりよく生きる上で、道徳的価値は大切なことであるとの理解
- ▶ 道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができないとの理解
- ▶ 道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は多様であることを前提とした理解など

※ 道徳的諸価値の理解は評価不可

②思考力・判断力・表現力等の育成 ＝人間としての在り方生き方

(小学校)

- ・道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止める。
- ・他者の多様な考え方や感じ方に触れることで自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめる。
- ・生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現しようとする思いや願いを深める。

(中学校)

- ・人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索する。
- ・人間についての深い理解を鏡として行為の主体としての自己を深く見つめる。

※ 道徳的判断力の育成とどう関わるか

③ 学びに向かう力、人間性

≒人間としてよりよく生きようとする道徳性

道徳性…自己の(人間としての)生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者とともにによりよく生きるための基盤

道徳的判断力…様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する能力

道徳的心情…人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情

道徳的実践意欲と態度…道徳的価値を実現しようとする意志の働き、行為への身構え

※ ここだけ道徳性(の諸様相)に対応させるとアンバランス
道徳性の諸様相は評価不可

道徳性を養う学習と、道徳教育で育成を目指す資質・能力の整理

道徳教育で育成する資質・能力としての道徳性と、道徳教育・道徳科の学習の過程との関係をイメージしたものです。

道徳教育 道徳科の意義、特質から、これらの要素を分節して評価を行うことはなじまない。

道徳的諸価値の理解と自分自身に固有の選択基準・判断基準の形成		
高等学校	生徒一人一人の 人間としての在り方生き方に についての考え方(思考)	人間としてよりよく生きようとする 道徳性
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的諸価値の理解に基づき、<u>自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成すること</u> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、<u>自立した人間として他者とともにによりよく生きるために基盤となる道徳性</u> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する能力（道徳的判断力） ・人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情（道徳的心情） ・道徳的価値を実現しようとする意志の働き、行為への身構え（道徳的実践意欲と態度）など
小学校、中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>道徳的諸価値の意義及びその大切さなどを理解すること</u> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としてよりよく生きる上で、道徳的価値は大切なことであるということの理解 ・道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができないことの理解 ・道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方方は多様であるということを前提とした理解 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考え方を深めること</u> <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索する ・人間についての深い理解を鏡として行為の主体としての自己を深く見つめる <p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止める ・他者の多様な考え方や感じ方に触れることで、自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめる ・生き方の課題を考え、それを自己（人間として）の生き方として実現しようとする思いや願いを深める <p>など</p>

道徳性を養うための学習を支える要素

道徳教育・道徳科で育てる資質・能力

中央教育審議会答申(2016)

(課題2)「主体的・対話的で深い学び」

- ▶ 各教科における「主体的・対話的な深い学び」
アクティブ・ラーニング
発見学習、問題解決学習、体験学習、
調査学習、探究学習、ディベートなど



- ▶ 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」
※ 中央教育審議会答申(平成28年)で関連づけ

(1) 道徳科の主体的・対話的で深い学び

(a) 道徳科における「主体的な学び」

- ①児童・生徒が問題意識を持つ
 - ②自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりでとらえ、自己の生き方について考える
 - ③各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に關して考えたことや感じたことを統合
 - ④自ら道徳性を養う中で、自ら振り返って成長を実感したり、これから課題や目標を見つけたりする
- ※ 本当に児童・生徒の問題意識に合った
「主体的な学び」になっているか

(b) 道徳科の「対話的な学び」

- ① 子供同士で協働する
 - ② 教職員や地域の人と対話する
 - ③ 先哲の考えを手掛かりに考える
 - ④ 異なる意見と向かい合い議論する
 - ⑤ 道徳的価値の葛藤や衝突が生じる場面を
多面的・多角的に議論すること等
自分の道徳的価値の理解を深めたり広げたりする
- ※ 互いの見方・考え方を尊重し、納得できる解
を協働的に創る学びになっているか

対話・
ディベート

道徳科の「主体的・対話的で深い学び」

(c) 道徳科の「深い学び」

① 道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して



② さまざまな場面、状況において道徳的価値を実現するための問題状況を把握する

③ 適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を養う

※問題解決的な学習が深い学びになっているか

3 GIGAスクール構想における 個別最適な学びと協働的な学び

「主体的な学び」を超えた「個別最適な学び」

児童生徒一人ひとりの学びに対応したスタイル

問題解決的な学習(考え方議論する道徳)

簡単な問題(心情理解) → 退屈で分かりきった授業

難しい問題(探究) → ついて行けない授業

「対話的な学び」を超えた「協働的な学び」

無責任な会話...オープンエンドの授業

責任ある探究...納得解を協働で構築する授業

3 GIGAスクール構想における個別最適な学びと協働的な学び

問題状況
(小学5・6年生)

掃除後にAが当番でゴミ捨てに行こうとすると、Bが気の弱いCにその役割を無理に押し付けた。

◆学びの個性化・指導の個別化

(問1)何が問題か

どうしたらよいか

- ① Bに止めるよう促す
- ② 見て見ぬふり
- ③ Bに同調する
- ④ Cに声をかける
- ⑤ その他(一緒に止める)

自らの関心で問い合わせ立て
タブレットに入力・送信・集約

各自の解決策に合わせた展開を示す

(問2)その結果、
どうなるだろうか

- ①嫌がる、怒り出す
- ②もっと増長する
- ③自分も同罪になる
- ④効果が薄い
- ⑤思いとどまる

協働的な学びへ

3 GIGAスクール構想における個別最適な学びと協働的な学び

◆学びの個性化(例)

(問3)それが本当に自分が望んでいる姿か？
その結果に納得できるか？
それぞれに適した発問

- ① どうしたら自分が望む姿に近づけるか
- ② どうしたら納得できるか
- ③ 皆が納得できる答えか？

個別に省察して、
タブレットに入力・送信・集約

各自の解決策に合わせた展開を示す

- (問4)どうすれば互いに納得できる解になるか？
- ・A(被害者)の気持ちを考える
 - ・B(当事者)の言い分も理解する
 - ・Bを説得する言い方を考えてみる
- 考え方提示し合い、互いの見解を比較検討

協働的な学び

3 GIGAスクール構想における 個別最適な学びと協働的な学び

▶ 個別最適な学び(指導の個別化・学びの個性化)

「自己(人間として)の生き方」を自分事として考える

ICTを活用して因果関係を踏まえ、納得解を創る

▶ 協働的な学び

多面的・多角的に議論して、納得解を協働で創る

ICTを活用して意見共有、相互理解、比較検討する

▶ スタディ・ログ

道徳科で自ら学び考え、共に議論した記録を残す

パフォーマンス評価からポートフォリオ評価へ

児童・生徒の自己評価 教師からのフィードバックの蓄積

おわりに

- ▶ 教育課程の基準はどうあるべきか
教科の本質と機能(連動)
目標、内容、指導、評価を一体化した質的改善
- ▶ どのような視点と方法で評価可能か
道徳科で育成すべき資質・能力(発達段階)の明示
それに対応した指導・評価の確立
- ▶ その結果をどう生かすか
道徳科授業の実施状況、道徳性の育成状況
多面的な分析・評価→改善(カリキュラム・マネジメント)

(参考文献)

- 日本教科教育学会編『教科とその本質』、教育出版
- 日本教科教育学会編『教科教育研究ハンドブック』、教育出版
- 日本教科教育学会編『今なぜ、教科教育なのか』、文溪堂
- 『「考え方議論する道徳」を実現する』、図書文化
- 押谷由夫・柳沼良太編著『道徳の時代がきた』、『道徳の時代をつくる』、教育出版
- 干場康平、岩田尚之、大坪雅詩、柳沼良太「新領域『どう生きる科』の構想と実践—岐阜大学教育学部附属小中学校の挑戦—」、『岐阜大学教育学部教育実践研究』
- 柳沼良太『学びと生き方を統合するSociety5.0の教育』、図書文化社
- 柳沼良太『生きる力を育む道徳教育』、慶應義塾大学出版会
- 柳沼良太『実効性のある道徳教育』、教育出版
- 柳沼良太編著『問題解決型の道徳授業 事例集』、図書文化社